

1 歴史・文化的環境

- ・紅花－経済活動による幅広い庭園文化の形成・・・出雲石（来待石）、大石武学流
- ・黒塀－17世紀半ば以来の共同体による街並み形成
- ・「小僧道」－民間信仰と人々の往来
- ・煎茶趣味－上段の間の中国的デザインと唐木・・・近代に隆盛（13代、14代）

2 立地環境

- ・地形－西山丘陵を背にした東向きの主屋・・・自然と共に
- ・水系－山からの水を土手で受ける（治水）、溜池を造り生活用水および園池の水源に、園池の水を池尻から主屋軒内の溝へ導き水景とする（利水）

3 空間構成と意匠・素材

- ・主屋まわり・・・主屋は明治30（1897）年～同31年に南側の座敷部を建替
 - *上座敷庭－斜面を利用した滝流れと池、琉球躑躅（白）と田植躑躅（赤）の対比
植栽はドウダンツツジ、スイリュウヒバ、キャラボク、カエデ類など
文久元年（1861）「前つぼ手入れ」、同3年「滝水口仕置」、
明治28年（1895）「滝泉水南播鉢沼上より引く」？
 - *前庭－長屋から主屋へのアプローチで空間を分節
主屋軒内に水を流す
南側－客を迎える空間－アカマツと大雪見型石燈籠（昭和11年新設）、庭園灯
北側－生活空間－洗い場
長屋は文化13年（1816）、明治44年（1911）東方に9尺北方に1尺移動
大正15年（1926）表正面敷石（3尺大）除きコンクリーに改造、大戸口へ
- ・前蔵庭－蹲踞と礼拝石へ二筋の飛石、礼拝石の奥に水盤、合わせ石（大石武学流的）
植栽は臥龍松、コウヤマキ、キャラボク、オウゴンヒバなど
慶応3年（1867）「前蔵庭築立」
明治35年（1902）前蔵新築・・・「石垣東方へ2尺5寸張出」
同41年（1908）「庭拵」
同42年（1909）「松買入（高さ2間半・目通り4尺、枝引4間）」
大正12年（1923）「ハイ松台新設」
同15年（1926）「五重塔（高さ1丈2尺）ほか建立」（来待石）
- ・仏間南庭－枯山水・・・硅化木、濡鷲型石燈籠（来待石）
明治42（1909）～43年大改修、明治45年（1912）「佛蔵南にわ拵」

4 伝統とモダンの融合

- ・石工の技－石の水盤、洗い場、側溝の石橋、塀の基礎石（光付け）など
- ・セメントの利用

5 未来へむけて

活用・・・文化財的価値を守り、感動を共有できる空間を創造していく